| 学校番号 | 412 |
|---|---|

# 令和２年度　国語科

| 教科 | 国語 | 科目 | 古典Ｂ | 単位数 | 3 単位 | 年次 | 2 年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 精選古典Ｂ　改訂版（三省堂） | | | | | | |
| 副教材等 | ・新修古典文法（京都書房）・新修古典文法ドリル編（京都書房）<br>・新明説漢文（尚文出版）　・ニューエイジ古文基礎１（第一学習社）<br>・Key&Point 古文単語 330（いいずな書店） | | | | | | |

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・１年生で学んだ文法事項を、古文作品を読み解きながら確認し、定着させましょう。
・有名な古文と漢文の作品に親しむとともに、正しく心情等を理解するために語彙力や文法の知識をしっかりと身に着けてください。
・予習として必ず本文を読んでおきましょう。わからない単語は辞書を引いてきてください。
・提出物は期限を守りましょう。

2　学習の到達目標

・１年次に学んだ文法内容の定着と読解への応用。
・敬語・古文単語をはじめとした新しい文法的知識の獲得。
・作品の特徴を生かして朗読するなどして，古典の世界を楽しむこと。
・古典に表れたものの見方や考え方に触れ，登場人物や作者の思いなどを想像すること。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:関心・意欲・態度 | d:読む能力 | e:知識・理解 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。 | 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。 | 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。 |
| 評価方法 | 行動の観察<br>記述の点検<br>(ノート、ワークシート等) | 行動の観察<br>記述の点検<br>(ノート、ワークシート等)<br>定期考査<br>小テスト | 行動の観察<br>記述の点検<br>(ノート、ワークシート等)<br>定期考査<br>小テスト |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | a | d | e | | |
| 一学期 | 説話・文法・漢文 | 十訓抄「博雅の三位と鬼の笛」<br>方丈記「ゆく河の流れ」<br>和歌の修辞法<br>梁上君子 | ○ | ◎ | ○ | a:語句や表現に即して文章の展開を読み取ろうとする。<br>d:文章を通して、登場人物の行動の意味を読み取る。<br>e:和歌の修辞法について理解する。 | a:行動の観察と記録<br>d:記述の確認<br>e:定期考査 |
| 一学期 | 物語・文法・漢文 | 大和物語「姨捨」<br>助詞<br>病入膏肓 | ○ | | ○ | a:物語の展開を理解し、和歌に込められた気持ちを読み取る。<br>e:紛らわしい語句の識別を整理し文章を読み解く。 | a:行動の観察と記録・記述の確認<br>e:定期考査 |
| 二学期 | 物語・文法・漢文 | 源氏物語「光源氏の誕生」<br>枕草子「中納言参り給ひて」<br>敬語<br>四面楚歌 | ○ | ◎ | ○ | a:　文章に書かれている人物の心情を的確に理解している<br>d:敬語をもとに、人物関係が把握できている。<br>e:敬語の基礎知識をよく理解している。 | a:行動の観察と記録<br>d:記述の確認<br>e:定期考査 |
| 二学期 | 物語・和歌・漢文 | 大鏡「弓争い」<br>和歌十六首<br>孟子「不忍人之心」 | ○ | | ○ | a:文章に書かれている人物の心情を的確に理解している。<br>e:敬語の応用をよく理解している。 | a:行動の観察と記録・記述の確認<br>e:定期考査 |
| 学年末 | 日記・漢文 | 更科日記「あこがれ」<br>日本の漢詩文 | ○ | | ○ | a:作者の生活や考え方を読み取り、平安女流文学の特徴を理解する。<br>e:　紛らわしい語句の識別を整理し文章を読み解く。 | a:行動の観察と記録・記述の確認<br>e:定期考査 |

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:話す・聞く能力　c:書く能力
d:読む能力　e:知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」についてはすべての単元に位置づけて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域(「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」)に関わる観点には◎を付している。